

八重山に高速旅客船を追う

事務局長 池田良穂

編集集中の「日本の旅客船(1)高速旅客船」に足りない写真を撮影するために石垣島に出かけました。年間80万人程度だった八重山の観光客数は、新石垣空港の開設と、クルーズ客船の寄港増で130万人余りに増加しており、そのうち100万人以上の人々が石垣港発着の高速旅客船で八重山諸島を訪れています。最大速力40ノット級の高速旅客船がたくさん就航していますが、その多くは19総トン型の小型船でした。サンゴ礁の中に点在する諸島の中には、一番近い竹富島まではわずか15分、遠い西表島まで40分ほどかかりますが、かつてはスピードの遅い在来型旅客船が就航していて、時間も随分かかり、天候によっては数日間帰れなくなることもあると言われたほどでしたが、今では高速旅客船の就航によって、1日に3~5島もまわるツアーまであるほどです。

最近、高速旅客船の大型化が顕著となり、2年ほど行かなかった間にずいぶんたくさんの高速船が就航していることを知り、4月下旬の週末を利用して出かけることにしました。

港の近くの東横インに宿泊して、その前の岸壁(昔の沖縄本島からの旅客船のターミナル(石垣港ターミナル)が残っていて、その展望デッキから離島航路船の撮影ができます)や離島ターミナル等で、出入りする高速旅客船のシップウォッチングをしました。さらに高速船に乗ると、コバルトブルーの海を疾走する高速旅客船のダイナミックな写真を撮影することができます。特に最近就航の大型高速船ではオープンデッキのある船もあり、船上からの写真撮影も容易にできるようになりました。

石垣港(旧旅客船)ターミナルからの撮影



安栄観光の「ばいじま 2」は、石垣島と波照間島を結ぶ約1時間半の航路に就航しています。元の石崎汽船の「シーマックス」です。



琉球海運のRORO貨物船「かりゆし」の入港風景です。旧旅客船ターミナル前の岸壁は、現在は貨物船が利用しています。



朝 9 時に波照間航路の在来型フェリー「フェリーはてるま」が出港していきました。



八重山観光フェリーの新鋭船「あやばに」です。2 階のオープンデッキから走行中に写真撮影ができるので、滞在中に何度も乗船しました。

離島ターミナル周辺での撮影



離島ターミナルには 3 つの浮桟橋があり、八重山諸島航路の高速旅客船が頻繁に出入りしています。



入港してきた高速旅客船も、まだ結構な速力で走っています。



東横インの部屋の窓から旧石垣港(旅客船)ターミナルが正面に見えます。



離島ターミナルの岸壁に石垣島出身のボクサー具志堅用高氏の銅像が立っています。

ダイナミックな写真を撮る!!

八重山航路定期船に乗ると、途中で全速疾走する高速旅客船の姿を撮影することができます。定期客船以外にたくさんのチャーター船が運航されているので結構たくさんの船に出会えます。



「あさひ1号」



「第8 あんえい号」



「うみかじ」



高速 RORO 貨客船「ゆいまる」



「ドリーム5」



「ちゅらさん2」

長距離航路船

石垣島からの長距離航路としては、与那国島航路と波照間島航路があります。そのふ頭は石垣港の最奥部の東側の岸壁にあります。



「フェリーよなくに」



「フェリーはてるま」